
ストレイトデスサイズ-迷える死神の鎌-

夜宵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストレイトデスサイズ - 迷える死神の鎌 -

【Nコード】

N0211K

【作者名】

夜宵

【あらすじ】

『ノリスタチア』という国。

その国の各街々で繰り広げられるは、

持ち主が死んで行き場を無くし暴走している、

迷える死神の鎌

ストレイトデスサイズと

死神『ブラッディ・アルフィス』

デスサイズ『アリス・キャノワール』達の戦い。

軽くグロテスクな表現があります。

苦手な方はバックしてください。

第1話・夜風ニ吹カレ・（前書き）

ファンタジイイイイイイイイイイイイイイイッ！！！！

や、すいません。

←から本編です。

第1話・夜風二吹カレ・

それは、持ち主の死神が死んで、
持ち主が居なくなつた^{死神の鎌}デスサイズを意味する。

迷子で行き場のなくなつたデスサイズは
暴走して^{死の手帳}デスリストに名が載っていない者の首まで刎ねる。

^{迷える死神の鎌}
そのストレイトデスサイズを浄化させるのが、
死神、『ブラッディⅡアルフィス』。
そしてデスサイズの、『アリスⅡキャルノワール』。

「ブラッディ、仕事だ。」

アリスはパラツと^{迷えるリスト}ストレイトリストを捲る。

「・・・今回は??」

ふう・・・と煙草の紫煙を夜の風に乗せ、アリスに問う。

「マリアⅡカルラ。アルトラフィの街を監視していた奴のデスサイズだ。」

ブラッディは煙草を地面に捨て、踏み潰し火を消す。

——ソレが、アリスへの合図。

アリスは、キイイイイイツと音を立て鋭い刃の大鎌が変わる。

刃は血のように赤く、他は闇のように黒い。

満月の夜、ソレは始まる。

ブラッディは全身の黒尽くめを冷たい夜風になびかせ屋根の上を駆け、飛ぶ。

「……マリア＝カルラストレイトの位置は。」

「北300m、それから右へ曲がった路地だ。」

「——了解。」

バツと、体を風の抵抗を受けつつ左へ方向転換する。

一瞬、ブラッディの赤黒い血のような眼が光った。

そう、敵のお出ましだ。

「クック、自分から出てくるとはな。俺ア、もう帰ってエんだ。大人しくしな。」

「——ブラッディ、来るぜ……っ!!」

キイイイインツ!!!!!!

アリスの言葉と共に鎌が交わった。

とてつもない音は静かな真夜中のアルトラフィの街に響く。

響いた音は夜風に流され、フワッと、夜の空に黒い煙が上がった。

第1話・夜風二吹カレ・（後書き）

どうでしたか??

私的には、

初めてのファンタジーには結構出来たと思っています。
満足満足♪

第2話・ストレイトデスサイズノココロ・（前書き）

のろのろと活動中。

第2話・ストレイトデスサイズノココロ・

「ーで、ですね、昨日死んだ死神、クリハイア^{の鎌}イスリーの^{死神}デスサイズを浄化して欲しく来ました。」

女性が依頼をしてきた。

ズズッと、珈琲を啜り話を聞く黒尽くめの男は、ブラッディ^{死の手帳}アルフィス。

ブラッディは、

持ち主の死神が死んで、
持ち主が居なくなつたデスサイズ・・・

いわば、迷子で行き場のなくなつたデスサイズは
暴走して^{迷える死神の鎌}デスリストに名が載っていない者の
首まで無差別に刎ねる、ストレイトデスサイズを
浄化する仕事をやっている。

その隣で話の内容をメモしているのは、
ブラッディのデスサイズ、アリス^{死の手帳}キャノワール。

「デスサイズの名前とレベルは??」

アリスがブラッディの変わりに問う。

「カルメラ^{死の手帳}メアリです。レベル4。」

「解つた、後は俺らに任せろ。」

女性をとつと部屋から追い出し、夜になるのを待った。

[illegible]

「カルメラIIメアリ」

ブラッディが呟く。

「知り合いか??」

アリスが問う。

「いや、違う。甘い名前だなんて思ってな……」

「・・・キャラメルに似てるって事か??」

「嗚呼・・。」

「ブラッディ、甘い嫌いじゃなかったのか?」

「嫌いだ。だからコイツも俺の嫌いな奴なんだろうな。うてな。」

敵と戦う前のこんな喋りでも、互いの緊張を解す為にやっている。レベル4は自を持ったデスサイズ。かなり強敵だろう。

「——さ、今夜もいつちよやりますかっ。」

鋭い音を立ててアリスは鎌になる。

「——ブラッディ!!!」

アリスの叫びと共に、バツと屋根を移動する。

「チツ……」

『ヒトヲ、コロシタイノ。ワタシハレベル4。レベル5ニナリタイノ。』

ダカラ、アナタたち、チカラノアルモノヲコロシテレベル5ニナリタイノ。』

「コレがカルメラ＝メアリか。」

《みたいだね。》

「名前は甘くても、コイツ自身は甘くないようだ。」

煙草に火をつけ啜える。

そして、軽く深呼吸を、高く飛ぶ!!

「いくぞ、アリス!!!」

《嗚呼っ!!!》

——刹那、グシャツという音と共に赤黒い‘ソレ’は飛んだ。

そして、コロソツと、転げ落ちる、ストレイトデスサイズの首。ドクドクと、止め処なく流れてくる紅色。

それはとても綺麗で。

カルメラ＝メアリの叫び声が、沈黙した真夜中の街に響く。

そして、朝、何事もなかったようにまた世界はめくるめく。

第2話・ストレイトデスサイズノココロ・（後書き）

夜宵です。

相変わらずしんどい。

第3話 - ストレイトデスサイズ製造工場 - (前書き)

消えた . . .

第3話・ストレイトデスサイズ製造工場・

街外れの廃工場。

そこは、人氣がなく、寂しい場所。

その1つから聞こえてくる音。

グシャツ、グシャツ、ギヤアアアアツ、．．．。

「むうー、イチハ、飽きちゃったあ」

「しょうがないじゃないですか、これが私達の仕事なんだから。」

廃工場の1つで行われているのは、そう。

ストレイトデスサイズ造り。

死神を捕まえては殺す。

その作業を繰り返し、デスサイズを逃がし、造る。

「ねーえー、もっと面白い事しよーよおー」

むすりと頬を膨らますのは、イチハ「メイリン。

死神だ。

その横は、クラック「グラフィアス。

デスサイズだ。

「やれと上のお偉いさんから言われてるんですから、ね???イチハ

」

「やだあー、イチハもっと楽しい事したいーっ!!あーそーびーた
ーいーっ!!」

「ちょいと煩いんやありまへんか??イチハサン。」

《そうだそうだっ、うつせーぞイチハ》

死神達の首を規則的に刎ねているのは、

死神の、クロハオル〃ヨウヒ。

そして、そのデスサイズの、

カルツク〃ココエン。

「煩いとは何よおっ!!」

「イチハっ、いい加減にしなさい。」

「もー、何よおっ、クラツクのバカっ!!」

イチハは、パシッとクラツクの手を掴むと、
クラツクはスツと、鎌になって行く。

「イチハ、外で遊んでくるもんっ!!」

そう言っクラツクてイチハは鎌を持って外へ飛び出す。

「あーあ、行っクラツクてもた。僕等、悪くないよなあ??」

《ああ、イチハのバカが悪いんじゃっ!!》

「・・・そろそろ、休憩としましょか。カルツク。」

それを聞けばカルツクは人間の姿になる。

「はあ、今日も疲れた。　．．クラック兄さんが死神だったら良かったのに．．。」

「そうやねえ、カルツク達、両方デスサイズやさかいに。」

「でもまあ、僕は兄さんとうちやって仕事出来るのが1番だけど．．」

「．．ん、カルツクは偉い、偉い．．」

クロハオルは細目を少し開きニコリ笑い、カルツクの頭を撫でる。

カルツクは目を瞑りクロハオルの膝へ頭を乗せ静かに眠りについた。

また、1・2時間後には悲鳴と、首を刎ねる音が賑やかに静かな廃工場へと響いていた――。

第3話・ストレイトデスサイズ製造工場 - (後書き)

性別が解らんキャラがいたので、性別紹介〜イエーイ

・ブラッディ ↓ 男
・アリス ↓ 男
・イチハ ↓ 女
・クラック ↓ 男
・クロハオル ↓ 男
・カルック ↓ 女

え、予想外でした??w

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0211k/>

ストレイトデスサイズ-迷える死神の鎌-

2010年10月10日05時26分発行